

新居浜市文化芸術振興計画の見直しについて

1. 見直しの趣旨

本計画は、2019（平成31）年3月に、2019（令和元）年度から2028（令和10）年度までの10年間の計画として策定し、今年度末で5年を経過するため、社会情勢や市民のニーズなどの変化等を考慮し、中間見直しを行うこととします。

2. 計画の対象となる文化芸術の範囲

本計画における文化芸術の範囲は、「文化芸術基本法」に例示されているものを対象とします。

具体的には、文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術、メディア芸術、芸能、茶道、華道、書道、文化財等ですが、別子銅山近代化産業遺産については、「別子銅山近代化産業遺産を活かしたまちづくり総合整備計画」において計画が示されていますので、本計画では対象外とします。

3. 目指すまちづくりと基本目標

本計画の基本理念を【文化芸術の香りを未来に伝えるまちづくり】と定め、その具体像として次の4つの基本目標を設定し、各目標間の相互関係を踏まえつつ、施策の展開を図っています。

【基本目標1】～子どもが文化に触れ、心豊かに成長できるまち～

体験や交流する場を増やすことにより、子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出し、心豊かに成長できるまちを目指します。

【基本目標2】～文化を身近に鑑賞、活動できる場所があるまち～

身近に文化芸術を感じられ、気軽に鑑賞、活動ができる場の提供や幅広い層に向けての情報発信を行い、活気に満ちたまちを目指します。

【基本目標3】～身近に自然・歴史が感じられ、ふるさとへの誇りをもてるまち～

先人たちにより守り継がれてきた魅力を広め、歴史・文化資源の価値を再確認し、住んでよかった、住みたいと思うまちを目指します。

【基本目標4】～伝統ある文化が継承され、市民が大切にしているまち～

郷土芸能を中心に、踊りや由来を知る機会を提供し、伝統的な文化が継承され、ふるさとを大切にすまちを目指します。

4. 前期5年間の文化芸術の状況

(1) 主な文化芸術団体の状況

	2019年3月 (平成31年3月)	2024年3月 (令和6年3月)	増 減	備考
新居浜文化協会 加盟団体数	72 団体	61 団体	▲ 11 団体	
新居浜市郷土芸能 保存連絡協議会 加盟団体数	14 団体	15 団体	+ 1 団体	勇太鼓保存会 が加入

※新型コロナウイルス感染症による活動制限は、団体数にも大きな影響を及ぼしている。

(2) 主な文化芸術施設の利用状況

	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2022年度 (令和4年度)	増 減 (22年度-18年度)
市民文化センター 入場者数	141,569 人	45,404 人	66,795 人	▲74,774 人
あかがねミュージ アム入館者数	205,749 人	94,274 人	155,742 人	▲50,007 人

※2020年1月に新型コロナウイルス感染症が確認され、2020年度以降、施設は休館を含む利用制限を余儀なくされたことから、前期5年の施設利用者は大きく減少した。

(3) 市内の文化芸術関連施設の整備状況

①ワクリエ新居浜（新居浜市生涯活躍のまち拠点施設）

令和3年6月に整備。多目的室、スタジオ等は新たな文化活動の場になっている。

②市民文化センター再整備事業

現在地での建て替えを前提に、令和4年度に基本構想を策定、令和6年3月に基本計画を策定予定である。

(4) 指定・登録有形文化財の状況

	2019年3月 (平成31年3月)	2024年3月 (令和6年3月)	増 減	備考
国・県・市文化財 指定数	91	92	+ 1	立川銅山師奉納常夜灯 銅山略式志 ▲剣銘国永
国登録有形文化財 登録数	9	17	+ 8	旧星越社宅(8)
合 計	100	109	+ 9	

※令和2年度に一宮神社内の「立川銅山師奉納常夜灯」、令和3年度に広瀬歴史記念館にある「銅山略式志」を市指定。令和4年度に国指定である「剣銘国永」が所有者転出に伴い、本市での登録は削除された。

※令和2年度に旧住友鋳業株式会社別子鋳業所長社宅母屋ほか7件が、国の登録有形文化財に登録されました。

5. 基本目標の達成度（市政モニターアンケート結果）

基本目標1 新居浜市は、「子どもが文化に触れ、心豊かに成長できるまち」だと思いますか。

	H30.9調査			R5.9調査			5年前からの変化	
	件数	割合	割合	件数	割合	割合	変化率	変化
1. 思う	12	61	38%	18	62	41%	+3%	
2. どちらかといえば思う	49			44				
3. どちらともいえない	61	61	38%	56	56	37%	-1%	
4. どちらかといえば思わない	25	36	22%	28	34	22%	0%	
5. 思わない	11			6				
6. 無回答	3	3	2%	0	0	0%		
合計	161			152				

「思う」又は「どちらかといえば思う」割合は、平成30年度の38%から**3%増加し、41%**である。

基本目標2 新居浜市は、「文化を身近に鑑賞、活動できる場所があるまち」だと思いますか。

	H30.9調査			R5.9調査			5年前からの変化	
	件数	割合	割合	件数	割合	割合	変化率	変化
1. 思う	17	63	39%	13	66	43%	+4%	
2. どちらかといえば思う	46			53				
3. どちらともいえない	40	40	25%	49	49	32%	+7%	
4. どちらかといえば思わない	39	58	36%	28	36	24%	-12%	
5. 思わない	19			8				
6. 無回答	0	0	0%	1	1	1%		
合計	161			152				

「思う」又は「どちらかといえば思う」割合は、平成30年度から**4%増加し、43%**である。

基本目標3 新居浜市は、「身近に自然・歴史が感じられ、ふるさとへの誇りをまち」だと思いますか。

	H30.9調査			R5.9調査			5年前からの変化	
	件数	割合	割合	件数	割合	割合	変化率	変化
1. 思う	26	99	61%	28	92	61%	0%	
2. どちらかといえば思う	73			64				
3. どちらともいえない	41	41	25%	37	37	24%	-1%	
4. どちらかといえば思わない	13	19	12%	20	23	15%	+3%	
5. 思わない	6			3				
6. 無回答	2	2	1%	0	0	0%		
合計	161			152				

「思う」又は「どちらかといえば思う」割合は、平成30年度と**同じ61%**である。

基本目標4 新居浜市は、「伝統ある文化が大切に継承され、市民が大切にしているまち」だと思いますか。

	H30.9調査			R5.9調査			5年前からの変化	
	件数	割合	割合	件数	割合	割合	変化率	変化
1. 思う	34	102	63%	18	66	43%	-20%	
2. どちらかといえば思う	68			48				
3. どちらともいえない	45	45	28%	51	51	34%	+6%	
4. どちらかといえば思わない	9	13	8%	31	35	23%	+15%	
5. 思わない	4			4				
6. 無回答	1	1	1%	0	0	0%		
合計	161			152				

「思う」又は「どちらかといえば思う」割合は、平成30年度から**20%減少し43%**である。太鼓祭りを含め、コロナ禍により継承の機会が減少したこともその要因と考えられるが、「**思わない**」「**どちらかといえば思わない**」よりも**20%多い結果**となっている。

6. 各基本目標の取り組み実績と評価 資料 2

7. 後期5年間の取り組み

【基本目標1】～子どもが文化に触れ、心豊かに成長できるまち～

市政モニターアンケートでは、5年前よりも若干前進している結果となっている。取り組み実績についても、新型コロナウイルス感染症の流行による休止はあったものの、ほぼ計画通りに実施できており、後期5年も取り組みを継続する。

【基本目標2】～文化を身近に鑑賞、活動できる場所があるまち～

市政モニターアンケートでは、5年前よりも若干前進している結果となっている。取り組み実績についても、新型コロナウイルス感染症の流行による休止はあったものの、ほぼ計画通りに実施できたものが多いが、コロナ禍の影響は大きく、新居浜文化協会加盟団体数や文化芸術施設の利用状況も減少していることから、後期5年は、次の通り取り組みを進める。

取り組みの方向性	主な取り組み	後期の取り組み	
③市民が多様な文化芸術に触れることができ、楽しむことのできる場所の整備を進めます。	老朽化の進む市民文化センターの整備方針決定については、関連する計画との整合性を図りながら、2020年度までに行います。	【主な取り組み】の変更。 	老朽化の進む市民文化センターの整備については、令和10年度からの工事着手を目指し取り組みを進めます。
④活動団体の活性化に向けた取り組み、支援を行っていきます。	活動団体と連携し、市民が気軽に見学や体験をしてもらえる機会を提供し、団体への加入者の促進を図ります。	前期の取り組み評価は【C】であったため、新居浜文化協会と連携しながら、重点的に取り組みを進めます。	

【基本目標3】～身近に自然・歴史が感じられ、ふるさとへの誇りをもてるまち～

市政モニターアンケートでは、5年前と同じく高い評価となっている。取り組み実績についても、計画通り実施できている項目が多く、指定・登録文化財も増加傾向にあるが、取り組みが進んでいない項目について、次の通り取り組みを進める。

取り組みの方向性	主な取り組み	後期の取り組み
①自然・歴史を学習できる場所を整備し、提供します。	郷土資料室「ふるさとらぽ」がある市民文化センター老朽化に対応するため、郷土文化資料等の展示・収蔵を行う新たな場所の整備を検討します。	前期の取り組み評価は【C】であったため、引き続き検討を進めます。

【基本目標4】～伝統ある文化が継承され、市民が大切にしているまち～

市政モニターアンケートでは、5年前よりも後退しているが、比較的高い評価を維持している。「伝統ある文化」とは主として「郷土芸能」を想定しており、郷土芸能保存連絡協議会加盟団体については、コロナ禍で活動が制限され継承の機会も減少していたことから、後期5年も取り組みを継続し、保存伝承活動の活性化を図る。